

八千代台まちづくり協議会

できることから始めるまちづくり

2023年12月24日

活動状況

1. ばら

2. バイオ炭

3. 八千代台駅西ロビジョン

4. まちづくりを進める体制に

5. 協働作業、意見交換

活動状況

1. ばら

- ・ 八千代台駅周辺に255本
- ・ 毎週土曜日朝8時～手入れ（7～9月は朝7時～）
- ・ 2024年1月13日（土）に70本を植栽予定
ゆうゆう通り駅側の東側と西口半月花壇

ばらの植栽と手入れ

2023年8月2日現在



東口ロータリー時計塔下の三角花壇（バラ30本）

BEFORE(2020年10月) ⇒ (2020年12月植栽) ⇒ AFTER(2022年5月)



西口ロータリー半月花壇(バラ40本)

BEFORE(2022年12月) ⇒ (2023年1月植栽) ⇒ AFTER(2023年5月)



ばらの人による被害



踏まれて折れてしまった



抜かれてしまった



持ち去られた



車にひかれた

活動状況

2. バイオ炭

- 2023年2月と8月のばら剪定枝を里山ロック隊にて乾燥
- 2023年6月5日ロック隊にて伐採竹をバイオ炭に
- 2023年12月10日に乾燥ばら剪定枝をバイオ炭に
- 2024年1月 バイオ炭をばら花壇に入れる予定

バイオ炭

ばらは、年に2回、2月頃と8月頃に剪定します。



2023年2月11日の剪定前と剪定後

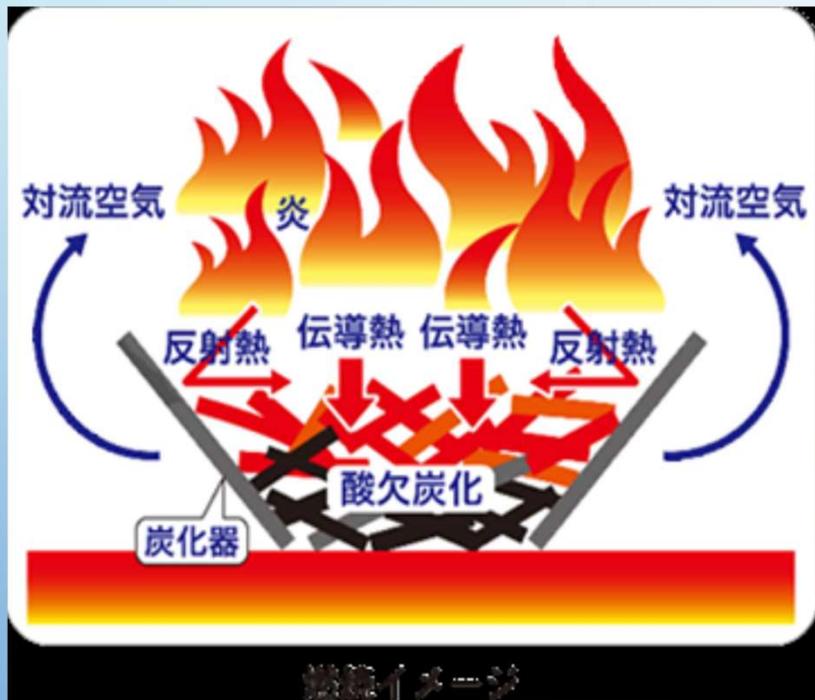
- 剪定すると剪定枝が出ます。
- 燃やせばCO₂が発生しますが、炭化し、バイオ炭にすると、土壌改良材として役立つとともに、炭素の隔離ができ、温暖化対策に役立ちます。



剪定枝は、ボランティア袋に11袋となりました。バイオ炭を作るのに協力して頂ける里山ロック隊の場所にて乾燥中です。



バイオ炭の作り方（無煙炭化器による方法）



原理



炭化器



出来たバイオ炭



未利用バイオマスの活用

地域経済活性化
里山景観維持



バイオ炭

バイオ炭による炭素貯留
Win-win-win

- 土壌炭素隔離
- 重金属等の吸収抑制
- 保水性・保肥性等の改良

地球環境
国際貢献

大気中のCO₂削減
(気候変動緩和)

消費者
メリット

食の安全・安心

生産者
メリット

農業生産性の向上
(持続的農業基盤)

出典: 農研機構普及成果情報2015年より改編

京都



亀岡

食卓から地球を冷そう!

クルペジ®

CO₂削減のために炭を畑に埋めました。その畑で育った農地炭素貯留野菜がクルペジです。

農地炭素貯留を応援します。

 京都銀行

4パーミル・イニシアチブとは

4パーミルイニシアチブとは、2015年に行われた気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)の際にフランス政府主導で始まり、「もしも全世界の土壤中に存在する炭素の量を毎年4パーミル(4/1000)ずつ増やすことができたなら、大気CO2の増加量をゼロに抑えることができる」という計算に基づき、土壌への炭素貯留を増やす活動を推進しようとする国際的な取り組みのことを言います。

4パーミル・イニシアチブについて／山梨県の農畜水産物ブランド「おいしい未来へやまなし」(pref.yamanashi.jp)



- **山梨県**では、4パーミル・イニシアチブの取り組みとして、まず、**県の主要農産物である果物に着目しました。**
- **モモやブドウなどの果樹園**では、冬に枝などを切る剪定を行います。その際に発生する剪定枝には、植物の光合成によって炭素が貯蓄されているので、剪定枝を燃やすと、炭素が酸素と結合して二酸化炭素になり、大気中に放出されます。
- しかし、**剪定枝を炭にすることで二酸化炭素の発生を減らすことができるだけでなく、微生物などによる分解がされにくくなります。**その炭を畑にまくことで半永久的に炭素を土壌中に留めることができ、大気中の二酸化炭素の増加量を抑えることにつながります。

活動状況

3. 八千代台駅西ロビジョン

八千代台駅西口のビジョン検討



活動状況

- 4. まちづくりを進める体制に
 - ・ まちづくり条例
 - ・ 景観計画
 - ・ 地域担当職員制

まちづくり条例

(例) 千葉市市民によるまちづくり条例

→ 千葉市を八千代市に置き換えて不
具合を調整

景観計画

(例) 千葉市景観計画

地域担当職員制

(例) 習志野市地域担当制

千葉市
市民自治による
まちづくり条例
- 解説書 -

まちづくりの主役は
"わたしたち"です!

千葉市の
まちづくりの条例
が生まれ
変わりました!

19

CHIBA CITY

活動状況

5. 協働作業、意見交換

- ・ 遊具壁のペイント 小学生
- ・ ベンチのペイント 中学生
- ・ 講演会とワークショップ

○ 遊具壁のペインティング（第一公園 2018年11月） <小学生>



ベンチのペインティング <中学生>

経緯

- ・2019年11月 まちづくり推進室から、勝田台駅北口のバス停移動に伴い、廃棄される予定の長い木製ベンチは必要か、と連絡があり、譲り受けうることにしました。
- ・2020年10月 解体工事が始まり、約1.8M幅のベンチを4台切り出しました。
- ・2021年4月 コミュニティ推進課のアレンジで八千代中学校と八千代台西中学校の校長先生との面談の機会があり、その時に、ベンチのペインティングのお願いをしました。快諾を頂き6月～7月に両校に各2台のベンチをお持ちしました。
- ・2022年3月3日に八千代中学校にて完成したベンチを受け取りました。

ベンチ

勝田台北口にあった長い木製のベンチです



足があるところで長さ1.8Mのベンチを切り出しました











講演会とワークショップ（令和3年3月21日）

八千代台まちづくり協議会 主催

八千代台の未来を考える 講演会・意見交換会

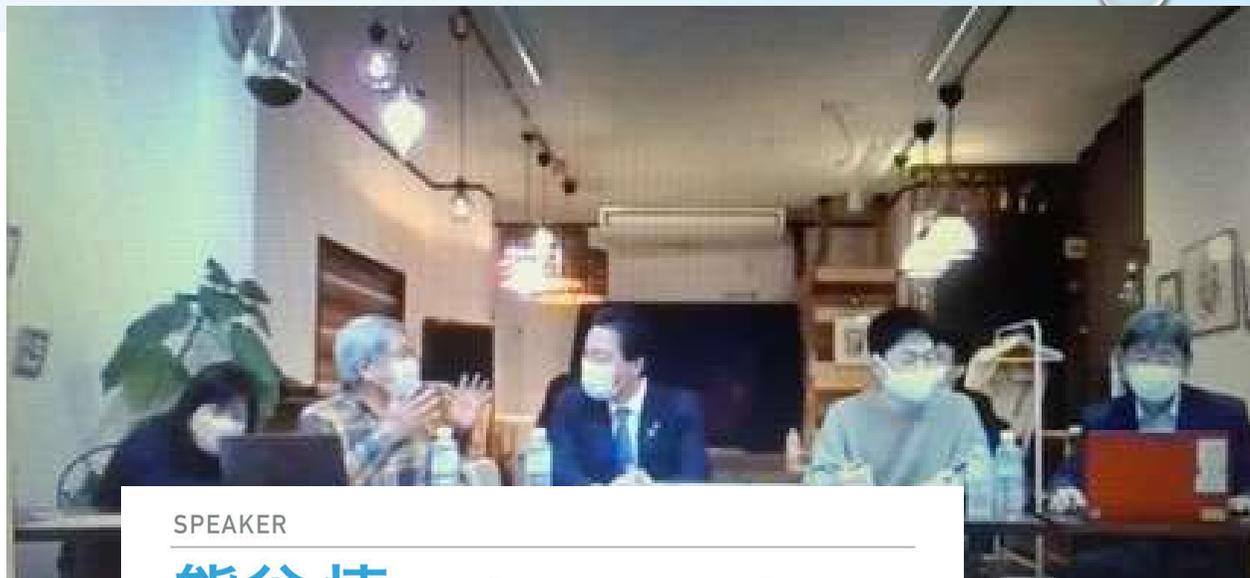
第1部 ▶ 講演：自分たちの住みたいまちをつくる！
～持続可能なまちづくりに向けて～

人口減少・少子高齢化、また新型コロナウイルスの影響により、民間主導の持続可能なまちづくりの必要性が高まっています。「全米 NO.1 の住みたいまち」と言われるポートランド（米国オレゴン州）や国内の事例等も交え、八千代台の未来に向けたまちづくりを考えるヒントを提供します。

第2部 ▶ 意見交換会

八千代台に関わる方々にご登壇いただき、パネルディスカッション形式でまちの未来について意見交換を行います。

令和3年 3月21日 開場13:45 14:00・16:00
WEBにて開催



SPEAKER

熊谷 慎一 (SHINICHI KUMAGAI)

- ▶ 株式会社まちづくり佐久タウンマネージャー
- ▶ 八千代台まちづくり合同会社アドバイザー
- ▶ まちづくり大山みらい(株)
エリアプロジェクトマネージャー

- 元株全国商店街支援センター 支援事業担当マネージャー
- 中小企業基盤整備機構 中心市街地活性化アドバイザー
- 地域力創造アドバイザー（総務省）
- 船橋市地域まちづくりアドバイザー



講演会（令和4年12月17日） 千葉大学 名誉教授 北原理雄様



まとめ

- まちづくりは、市民が合意と協調をはかりながら、まち育てのプロセスを組み立てるコミュニティデザイン
- まちづくりの目的は、市民の日常生活の環境を改善することなので、市民が自分事として関わる必要がある
- まちの暮らしの質を高めるには、幅広い関係者が協力し、日常生活のなかで、まちを少しずつ育てていくことが大切

活動の目的と方法

- ・ 設立、目的、組織
- ・ 方針
- ・ 活動内容
- ・ ポイント

設立：平成28年6月（2016年） 会員：57名 活動地域：八千代台

○目的：（規約第1条）

八千代台地区の少子高齢化に対応し、地域の個性や魅力を生かし、利便性が高く、活力あふれる地域作りを推進すると共に、これを支える市民主体の持続可能なコミュニティを育むことを目的とする。

○組織：（規約第2条の要約）

- ・ 八千代台地区自治会連合会
- ・ 商店会
- ・ 商工会議所
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 民生委員児童委員協議会
- ・ 地域の有識者等の地域社会を代表する人々
- ・ 八千代市の関係部署全体（庁内の調整はコミュニティ推進課が担当）

方針

1. 自分たちでできることを実行する
2. 専門家のアドバイスを得て実行する
3. 市役所等に依頼する

活動内容

1. 毎月2回の定例会にて活動内容の打合せ
2. ばらの植栽と手入れ（毎週土曜日の朝）
3. ばらの剪定枝等をバイオ炭化し、土壌改良と同時に炭素隔離を行い温暖化対策に貢献する
4. 「まちづくり」の基本となると思われる「まちづくり条例」と「景観計画」と「地域担当職員制」を検討する

ポイント

- ・ 自分から小さいことから始めて、「見える化」を！
- ・ ひとりよがりにならない（意見を聞いて改善を）
- ・ 人のアイデアやコメントを否定しない
- ・ ゆるいつながらり（無理して活動しない、強制しない）
- ・ 情報と人脈（市内のポテンシャルは？ 他の市は？）
- ・ その気になってもらう「しかけ」をつくる
- ・ だめなら現状復帰をする

できることから始めるまちづくり

☆ちょっとカラフルに！☆
☆燃やせばCO2発生、炭化すれば温暖化対策☆



ありがとうございました

